

ぜひ、ガイドを  
お願ひしてみよう。  
旅が楽しくなるぞ!



認定ジオガイド  
あさくら とし あき  
朝倉 利明さん

神話の世界に魅了されIターン、低山登りの楽しさを伝えたい

9年ほど前から本格的に山登りをするようになり、同好の知り合いの勧めで認定ジオガイドになった朝倉さん。山形県出身で全国各地を仕事で渡り歩き、札幌から出雲市へ赴任した後に退職しそのままIターン。「骨をうずめるならここだ」と決意させたのは古事記や出雲国風土記の世界観でした。「個人的に石神様や神社など神秘的なものが好きで、そこに近づぐために山に登るのですが、出雲地方はそうした神話世界を体現するものが数多くあり、とても面白い」と言います。とくに弥山山頂からの菌の長浜、大山、三瓶山の眺望は国引き神話を実感させ、日本海側のリアス海岸の美しさ、青い水平線など素晴らしいと太鼓判を押します。

朝倉さんがガイドする「日御碕絶景トレッキング」高尾山コース・桁掛半島コースでは、ジオならではの迫力ある海と山の自然を楽しめるのはもちろん、旧日本軍の兵舎跡やレーダー施設跡などの戦争遺跡、神秘的な宇龍峠、長い石段や設置されたロープなどでクライミング感覚を味わえたりと見どころも多く「知らないで帰るのはもったいない」と説明にも熱が入ります。

「『楽しかった』と言われるのがいちばんで、『勉強になりました』と言われるとちょっとしゃべりすぎたかなと反省します」という朝倉さん。何よりも楽しんでもらって、そこから知識が広がれば良いとし、「参加された方が誰かを誘ってレポートしてもらえればそれが最高です」と話していただきました。

島根半島・宍道湖中海ジオパークの地質・地形の特徴③〈全3回〉

解説:野村律夫(ジオパーク専門員、理学博士)

島根半島・宍道湖中海ジオパークは、大きく見ると3つのエリアに分かれています。そのエリアを地質という視点で見るとそれぞれの個性が浮かび上がってきます。レガシーという言葉があります。人間の遺産や伝統が過去から受け継がれるものという意味ですが、同じような意味で、特徴的な自然が資源として受け継がれる場合はヘリテージと呼びます。私たちのジオパークも大地の個性をもっと明確にするために、ヘリテージと呼ぶようにしています。3つのヘリテージがそれぞれの地域の文化や生物生態を生んでいるのです。



③南部丘陵山地ジオヘリテージの成り立ちと特徴

南部丘陵山地は、たたら製鉄の基になる磁鉄鉱を多く含む花こう岩が広く分布しています。この花こう岩は日本列島がまだユーラシア大陸の東縁部にあった、今から約7500万年から3000万年前頃に地下深部で形成された深成岩です。私たちのジオパークはこの花こう岩を基盤にして形成された約2000万年以降の地層からなります。南部丘陵山地では次の5段階の変動期がありました。ちなみに島根半島ジオヘリテージエリアは、花こう岩のような基盤岩が地下深くにあるため、南部丘陵山地とは異なる変動をしています。

<p>●約2000万年前</p> <p>長い間、花こう岩の大地が広がっていた出雲市や松江市の南の方で火山活動が始まりました。同様の火山活動は大田市の方にもありました。地域性があってその広がりは限られていますが、それぞれの行政区画に対応したかのような分布は興味深いことです。</p>	<p>●約1600万年前</p> <p>この時代は、「中期中新世最温暖期」とよばれ、汎世界的に温暖化が起こりました。西南日本は熱帯～亜熱帯の気候でした。海面水位が上昇し、中国山地は海面下に没したと考えられています。岡山県との県境にある吾妻山の山頂付近から貝化石が見つかっています。</p>	<p>●約1400万年前</p> <p>約1500万年～1400万年前になると、日本海の拡大が停止し、中国山地は隆起しました。また、安山岩マグマの火山活動が活発に起こりました。花仙山のメノウはこの時期のもので、立久恵峡の火山角礫岩や来待石はこの火山活動の末期のもので、</p>	<p>●約1300万年前</p> <p>中国山地の隆起に伴って、浅海化した場所でもできました。そのようなところで堆積した「布志名層」からは珍しい動物化石が見つかっています。古くから古生物学研究では有名で、タコブネや貝類に「出雲」や「宍道」の地名から付けられた学名が多数あります。</p>	<p>●約1100万年前</p> <p>この時代になると、深海域にあった島根半島も陸地化しました。浅海化した島根半島の間には砂が堆積しました。松江市街域や出雲市西部の海沿に分布しており、化石も見つかります。茶臼山や嫁ヶ島はこの時代に噴出した玄武岩です。</p>
--	--	--	---	--

■ 陸域 ■ 淡水域 ■ 浅海域 ■ 深海域  
■ 火山が噴火し始めた場所 --- 県境

ジオパーク通信

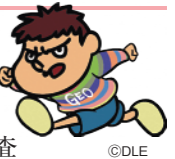
出雲国風土記の  
自然と歴史に出会う大地

- 協議会会員の紹介 ウミネコ生態調査専門調査員/地質サイト紹介・立久恵峡……1
- ジオパーク推進協議会の活動……2
- 日本有数の低火山 大根島/三好ジオパーク紹介……3
- ジオガイド紹介/島根半島・宍道湖中海ジオパークの地質・地形の特徴③……4

ジオパーク推進協議会会員の紹介 ウミネコ生態調査専門調査員

25年間にわたり経島のウミネコを調査

これから経島で  
ウミネコが見れる  
季節ですね



ウミネコ生態調査専門調査員  
はまだ よしはる  
濱田 義治さん

経島は日御碕神社の神域で、日本海沿岸では有数のウミネコ繁殖地として天然記念物に指定されているため一般の立ち入りは禁止されていますが、ウミネコ生態調査での立ち入りは特別に許可されています。ウミネコは季節移動する漂鳥で、経島には2月下旬に繁殖のために飛来します。3月20日前後に陸上ポイントから数取りで飛来数を調査し、4月20日前後に産卵調査で上陸して指定された調査区の巣の数と卵の数を調べます。ウミネコの卵は30～35日で孵化するので5月20日前後にもう一度上陸し、孵化したヒナと各巣の残卵数も記録します。この調査にあたるのが専門調査員の濱田さんです。島根県の鳥類の生態や生息環境の調査を60年続けられ、ウミネコ生態調査も25年間続けてこられました。

「ウミネコは可愛い鳴き声と美しい姿かたちがイメージされますが、実は気性が荒く縄張り意識も強い。調査に入る我々にも容赦はありません。ヘルメットの上から強烈に突かれたり、ファンをこれでもかというくらいかけられる」と笑われました。それでも調査を通してウミネコを見ていると人間社会と同じだと感じることもあるそうで、「子育て中はヒナと自分の縄張りを守るために必死ですから、今ではこうされるのが当たり前だと思うようになりました。ヒナが育ち夏に飛び立っていく姿にはうれしさもひとしお」と言われました。「経島は植物が少ないため巣材は島外から採集するしかなく最良の環境とはいえませんが、人や小動物が上陸しないことがウミネコにとって良い繁殖地である理由だと思います。経島が今後もウミネコの良い生息場所であってほしい」と語っていただきました。



経島の全景

地質サイト見どころ紹介 シリーズ 10 立久恵峡



立久恵峡に架かる吊り橋

立久恵峡は、神戸川の川面から50～150mくらいの高さで切り立った崖が、全長2kmにわたって広がる渓谷です。約1500万年前に形成された沿岸から陸域にできた水域で噴出した安山岩・デイサイトの溶岩や火砕岩が、神門川の侵食や風化の作用を受け形成されました。

巨大な岩がまるで杭を立てられたかのように並んでおり、「立杭」と呼ばれたことが、立久恵峡の名前の由来と言われています。

今から約1200年前に、薬師如来の像が、青い甲羅の亀の背に乗って川から上がってこられたと伝えられており、その姿を見つけた学僧が祀ったところから、立久恵峡

の信仰が始まったそうです。山岳教の修験場として隆盛を極めたことを感じさせる霊光寺、五百羅漢があり、ろうそく岩、屏風岩、天柱峯など巨岩が林立する絶景は、国の名勝・天然記念物で、県立自然公園にも指定されています。

立久恵峡わかあゆの里敷地内の中国自然歩道沿いに今年度ジオパーク解説看板を設置しました。隣には写真撮影スポットとなる看板も一緒に設置されています。

これから春をむかえたら、ぜひ立久恵峡を歩いて巡ってみてはどうでしょう。

美しい自然に  
癒されますね



五百羅漢  
1,000体を超える石仏の群像は  
圧巻です。

編集後記

このジオパーク通信で取材や原稿執筆の一部を担ってらっしゃるライターの方の矢島浩三さんの小説「北の石の座 南の森」が、山陰発の小説賞「第4回小さな今井大賞」の優秀賞に選ばれ書籍化されました。島根県出雲町の架空の場所を舞台にした神秘的な作品で、楽しく読むことができました。受賞おめでとうございます。

発行者: 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

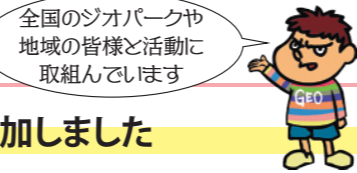
【松江市役所 文化振興課 ジオパーク推進室】  
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地  
TEL: 0852-55-5399  
E-mail: kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

【出雲市役所 政策企画課 プロジェクト推進室】  
〒693-8530 島根県出雲市今市町70番地  
TEL: 0853-21-6079  
E-mail: project@city.izumo.shimane.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク 日本ジオパークネットワーク

## ジオパーク推進協議会の活動



### 2024年度日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック研修会に参加しました

日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック研修会が、山陰海岸ジオパーク主催で10月23日(水)・24日(木)に兵庫県豊岡市で開催され、島根半島・宍道湖中海ジオパークから3名が参加しました。この研修会は毎年開催され、中四国近畿ブロックにあるジオパーク11地域が持ち回りで担当しています。

今回の研修会は、4年(または2年)ごとに行われるジオパーク再認定審査で各ジオパークが実際に指摘された事項をもとに、グループワークでどのように対応するかを考えるなど、実践的でとても有益な研修でした。

この他、玄武洞公園、コウノトリの郷公園、出石、カバンストリートなどを巡り、ここでも再認定審査での指摘事項などについて説明いただきました。

参加者は、ジオパーク同士の交流を深め、楽しく過ごすことができました。山陰海岸ジオパークの皆さん、お世話になり、ありがとうございました。



玄武洞(げんぶどう)  
地球磁場の反転を解明するきっかけとなった場所。



コウノトリ文化館  
コウノトリが飼育されており、展示などが充実。



研修会の様子  
グループワークで熱心に取り組みました。

### 第19回日本ジオパークネットワーク全国研修会in伊豆半島に参加しました

第19回日本ジオパークネットワーク全国研修会in伊豆半島が12月8日(日)～10日(火)に開催され、島根半島・宍道湖中海ジオパークからも2名が参加しました。

一般社団法人美しい伊豆創造センターが監修して出版された「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」に沿って、著述・編著した方々が講師として、「ジオパークからはじめる持続可能な社会づくりと担い手づくり」、「システム思考・デザイン思考ワークショップ」、「ジオパークと自然環境、文化多様性、社会的包摂、地域内循環経済」、「ジオパークの未来像ワークショップ」と題して研修が行われました。

3日目には、2グループに分かれ、地質サイトやジオパーク拠点施設のほか、伊豆急行×美しい伊豆創造センター・ジオパーク推進部によるSDGsトレインなどの視察が行われました。

SDGsが目標から問題解決ツールへ進化していることや、「魅力発見-課題発見-解決策提案-解決策実行」の探求活動による総合的問題解決アプローチを図ることなど、ワークショップなどを通じた参加型による質の高い研修を実施していただきました。

社会が直面している重要課題の解決に向けて、ジオパークとしてどのように取り組むかを考え行動することで、持続可能な社会の実現をめざす必要があると、気持ちを新たにすることができました。伊豆半島ジオパークの皆さん、ありがとうございました。



地質サイト・大室山(おおむろやま)  
伊豆東部火山群の中でも最大のスコリア丘。  
伝統行事「山焼き」で保全されています。



ジオテラス伊東  
伊豆高原駅構内にある伊豆半島ジオパークの拠点施設。



SDGsトレイン  
SDGs実現に向けたパートナーシップの象徴となるように「ツナグデンジャ」と名付けられています。

### パートナーシップ協定の締結を進めています

ジオパーク推進協議会と関係機関、団体、企業との役割分担の明文化を図るため、島根半島・宍道湖中海ジオパークの重点取組の一つとしてパートナーシップ協定締結を推進しており、令和6年12月末現在16団体と締結しています。各団体の皆様には締結した内容にもとづきジオパーク活動に取組んでいただき、ジオパーク推進協議会はこの活動を支援していきます。

今後も協定の締結を進めていきますので、締結を希望される団体等がありましたら、ジオパーク推進協議会事務局にご連絡ください。

団体名(敬称略)	協定締結日	団体名(敬称略)	協定締結日
1 国立大学法人島根大学	2022年 9月 2日	9 出雲ターミナル株式会社	2023年12月12日
2 加賀まるごと博物館	2023年 2月20日	10 小泉八雲記念館	2024年 3月14日
3 一般社団法人出雲観光協会	2023年 3月27日	11 公立大学法人島根県立大学	2024年 3月14日
4 ミサキどっとCome	2023年 9月28日	12 中海漁業協同組合	2024年 7月 1日
5 一般社団法人加賀瀬戸遊覧船	2023年 9月29日	13 宍道湖漁業協同組合	2024年 8月 1日
6 神社ガールズ研究会	2023年10月 6日	14 宍道湖魚類研究会	2024年10月 1日
7 出雲国ジオガイドの会	2023年11月 9日	15 島根県地学会	2024年10月15日
8 海の楽校	2023年11月30日	16 このはなプラン	2024年12月20日

## 島根半島・宍道湖中海ジオパークのジオストーリー 日本有数の低火山 大根島

大根島は、約19万年前に噴出した玄武岩の火山岩からなる周囲12 kmほどの小さな島です。玄武岩の溶岩は、粘性が小さく流動性に富むため、盾を伏せたようななだらかな地形をつくっています。この島で最も高い大塚山(標高42m)は、ここから玄武岩質のマグマを噴水のように吹き上げたところで、噴火で空中に飛散したマグマのしぶきは多孔質の黒っぽい岩塊(スコリア)となり、火口の周りに降り積もったスコリア丘です。

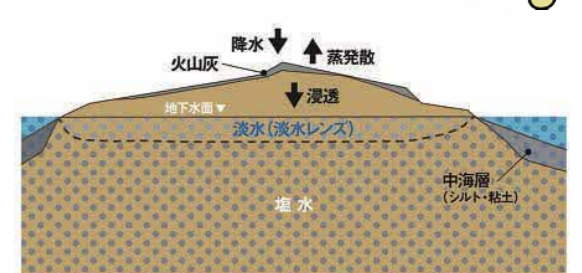
流動性のある玄武岩溶岩は、流れるうちに表面が固まっても、内側は流動していることがあり、内部の溶岩が流れ出してしまうと空洞ができます。この空洞を溶岩トンネルと呼んでおり、大根島には幽鬼洞(国指定特別天然記念物)と竜溪洞(国指定天然記念物)があります。洞窟の環境に適応した特異な生物(イワタメクラチビゴミムシ、キョウトメクラヨコエビなど)を見ることができます。

また、大根島の特産品である雲州人参は、大根島のなだらかな地形と黒ボク土が栽培に適しており、約200年前に松江藩が奨励して始まり、藩の財政を支えました。

一方、大根島の地表から地下にしみこんだ地下水は中海の塩分を含んだ汽水とは混ざりにくく、レンズ状の島の内部に押し込められた形で分布します。このようなレンズ状に分布する貯水体を「淡水レンズ」と呼び、湧き水が出る場所に集落がつくられていきました。



枕木山からの眺望



大根島の地下構造



## 三好ジオパーク紹介

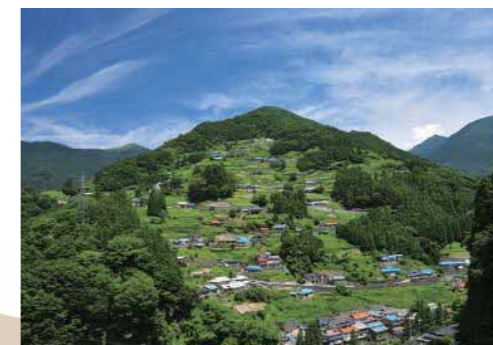
三好ジオパークは2024年10月9日に日本ジオパークに認定されました。おめでとうございます!



四国のほぼまんなか位置する三好ジオパークは、急峻な渓谷や斜面に点在する集落、そして雄大で多様な表情を見せる吉野川の流れなど様々な景観が広がるエリアです。エリア内では、そこに生息する生き物や険しい地形の上に成り立った人々の生活文化に触れることができます。これらの景観が作り出されたベースとして、いくつもの特徴ある地形が関係しています。これらの地形を作り出した大地の変動として、3つの「動く大地」が関係しています。

### 1. “崩れる”現象 「地すべり」

山間地にある斜面の集落の大部分は、周囲の山の斜面よりも少し緩やかな地形の上に築かれています。過去から現在にまで発生してきた数多くの地すべりによってこれらの緩やかな地形が生み出されています。



落合集落(東祖谷)

### 3. “ずれ動く”現象 「中央構造線の活動」

約300万年前から現在に至るまでの中央構造線の活動により、断層崖や讃岐山脈などが誕生し、それまで北流していた吉野川の流れが遮られて大きく東へ流れを変える「吉野川の流路変更」が引き起こされ、現在の三好ジオパークの特徴的な地形が生み出されました。



吉野川の流路変更(阿波池田)

### 2. “割れる”現象 「河川の侵食」

四国を代表する河川である吉野川やその支流ではとても深い渓谷になっているところがあります。これらの深い渓谷は、砂質片岩やレキ質片岩の硬い岩石の崩落と水量豊富な河川による侵食によって誕生しました。



ひの字溪谷(祖谷溪)